

港の見える丘公園

薔薇三昧

お天気に誘われて ちょっと足を延ばしてみました
冬枯れの景色から一変！！

2022. 5. 10 島田 祥生



プリンセス アイコ(左)と プリンセス ミチコ





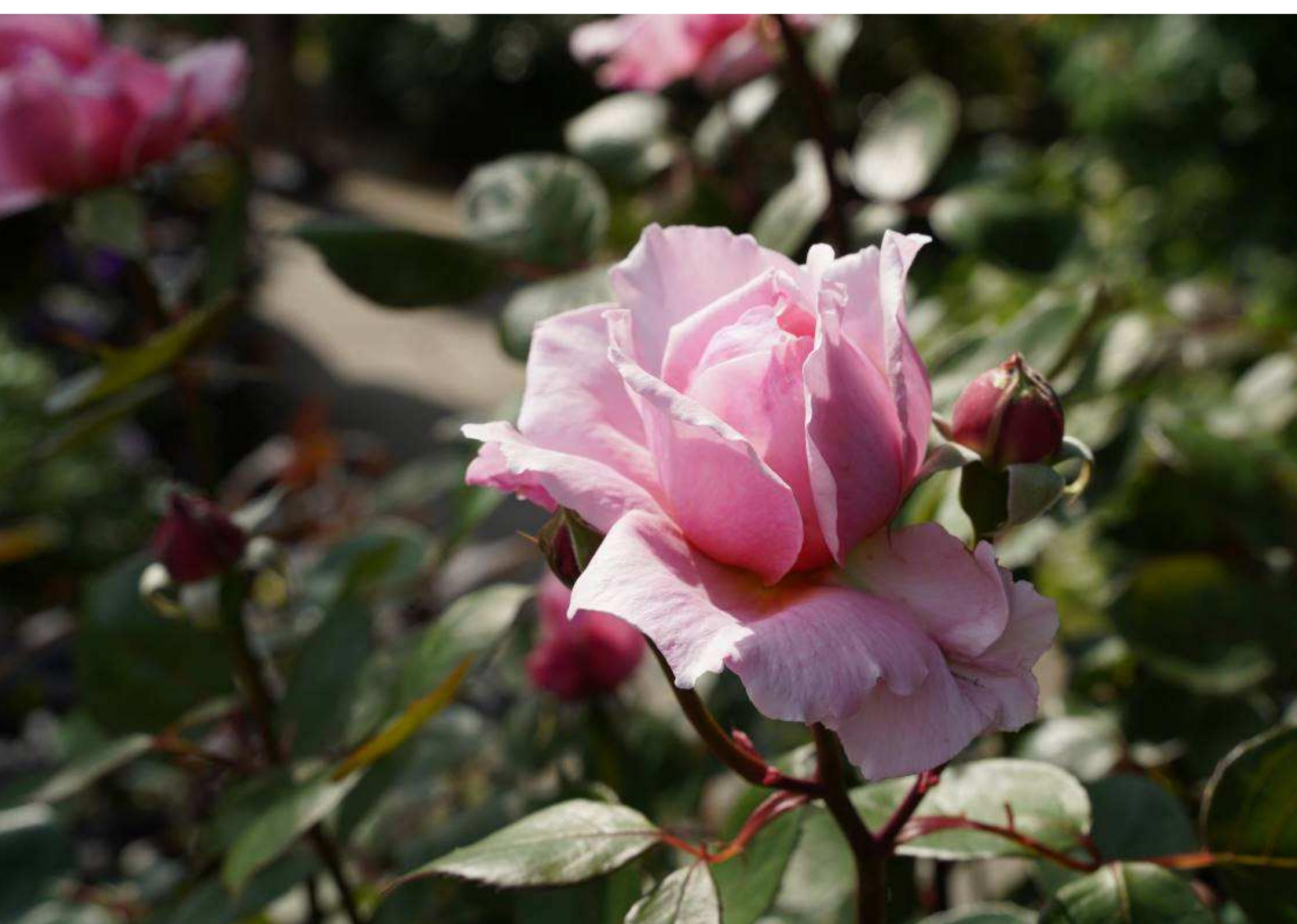








丹頂













パット・オースチン



アンブリッジ ローズ





花柄を丁寧に取っていました







木立の向こうは 大佛次郎記念館





イギリス館を背景にして

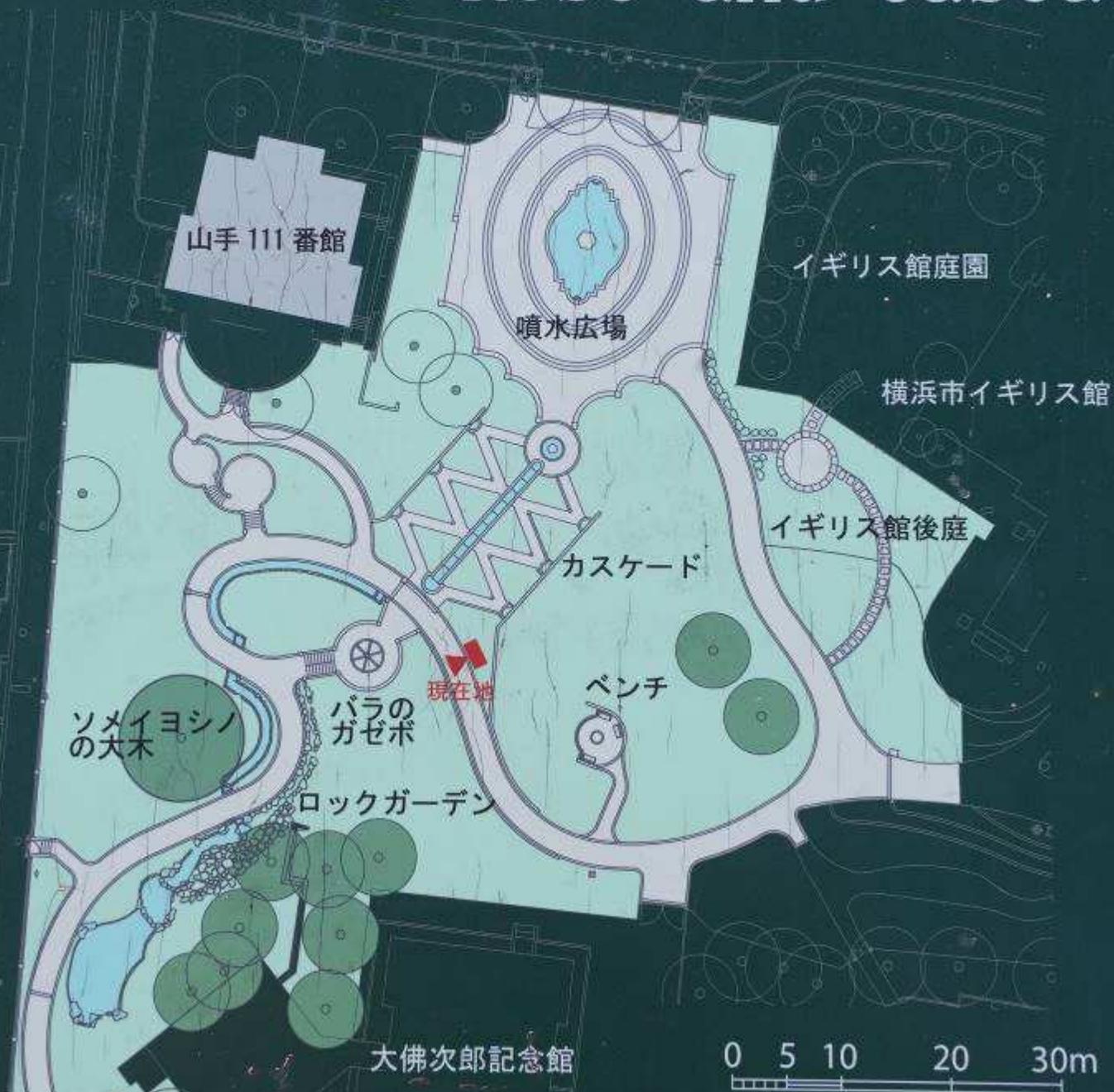


アオスジアゲハが飛んできた



バラとカスケードの庭

Garden with a Rose and cascade



■庭の歴史

港の見える丘公園は、戦後に横浜市が公園用地として取得した後、1961（昭和36）年から整備を行い、1962（昭和37）年に公園として開園しました。

初代のバラ園（現在のイングリッシュローズの庭）が1991（平成3）年5月に開園した後、山手111番館の整備に伴って1999（平成11）年3月に「ローズガーデン」として拡張整備を行なったのがこの庭の始まりです。

■バラとカスケードの庭のデザイン

横浜市イギリス館と山手111番館、大佛次郎記念館に囲まれた「すり鉢状」の地形を活かして、山手の丘の奥に隠された幻想的な庭の風景を演出しています。

カスケード（小滝）を中心とした「水の演出」の間に、つるバラのガゼボ、ロックガーデンなどが立体的に配置され、さながら庭園絵画の中を歩くような体験ができます。

庭園は、イギリス館や山手111番館と連続する風景を意図しており、山手111番館のカフェテラスからは、西洋館の私庭のような雰囲気を楽しめます。また、イギリス館の後庭には花に囲まれた小道が設けられています。

庭園内のソメイヨシノの大木は開園以前から当地所にあったもので、庭園の歴史を見守っています。

庭の概要

バラ品種 約80種類
植栽数量 約500株



この庭園は「横浜みどりアップ計画」の取組として緑と花の整備をしました。財源の一部として、横浜みどり税を活用しています。